

高原のつつじ期待含めて復活

2017年5月31日 澤田 繁 著

2017年、清水高原の5月中旬から6月中旬の景色は、やまつつじの赤に染まり始めた。

つつじの赤色が見れるのが、つばみが大きく膨らんでから花が散るまでの2週間ほどです、高原全体では、高原入口(標高1000m)からスカイランドきよみず(ホテル・標高1300m)までに多く見かけられました。開花の時期も2週間程度づれます、観察すると、同じ場所でも数日の差があり、花の色も微妙に違い固有の色彩が感じられます。標高差と日当たりの差も加わり1ヶ月近く楽しむ事が出来ました。

清水高原に登ってくる観光道路添いのやまつつじの分布を図にして見ました。県道25号(日本アルプス



サラダ街道)から3.5km地点(○)から現れはじめ、4km付近には、まとまって見られる。5km地点からはまとまって見られる地点多くなり、図(イ)～図(ヘ)の6か所に集団がある。

6年前から高原のつつじを復活させようと、自宅周辺の下草刈や木の伐採をして、日に少しでも多く当たるように整備をはじめました。上の写真は、自宅(標高1200m)に入る側道添いで本道から見えるところの大きな“やまつつじ”です、数年かけて周りの木を伐採した結果毎年多くの花を咲かせ高原のシンボルになりました。

6km地点(写真下の看板地点)を中心に山全体にやまつつじの木があることは確認されているが、ほとんどの木はかろうじて生命を保っているのが実情です。本道添いは、2年前の400本伐採に加え昨年の雨氷害で木が多く倒れた事で、やまつつじが道路脇の前面に表れてきたこと日当たりが極端に良くなったことで、かなり目立って綺麗に咲いた。と同時に他の草木も元気良くなって、夏にはつつじを



隠すほどに成長して日差しを遮ってしまいました。毎年同じように咲かせるには、周りの草木を切ってあげなくては?

春先には、6km付近の笹刈を、夏の終わりには、(ヘ)地点の草刈りをして、やまつつじに日が十分当たる様にしました、できれば範囲をひろげようと思いますが・・・。

道路添い以外にも、やまつつじは散在しています。高さ3m以上の木も多くあります、花が多く咲けば圧巻だが、その話はまた。

